様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　21　年　5　月　15　日現在

研究種目：基盤研究（Ｂ）
研究期間：2006～2008
課題番号：18320092
研究課題名（和文）持続可能な未来のための異文化コミュニケーション学
—明日の国際理解教育への試案—
研究課題名（英文）Intercultural Communication Studies for a Sustainable Future
—International Education for Tomorrow—

研究代表者
鳥飼　玖美子（TORIKAI KUMIKO）
立教大学・異文化コミュニケーション研究科・教授
研究者番号：８０２１９３６０

研究成果の概要：
「異文化コミュニケーション研究」と「持続可能な未来」を結び付け、複合的な現実世界の課題を扱う一例として、国際理解教育に研究の焦点を当てた。「高校生世界円卓会議」等において国際理解教育に関する実践を試みると同時に、環境、文化、言語を繋ぐコミュニケーション学の理論的枠組み構築も試み、専門家会議を開催することで、国際理解教育のあり方、異文化コミュニケーション研究との関連、持続可能な未来への示唆について考察することができた。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2006 年度	4,500,000	1,350,000	5,850,000
2007 年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2008 年度	5,400,000	1,620,000	7,020,000
年度			
年度			
総　計	13,700,000	4,110,000	18,810,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：言語学・外国語教育
キーワード：(1)異文化コミュニケーション学　(2)持続可能な未来　(3)国際理解教育
(4)行動の学　(5)言語　(6)環境　(7)通訳翻訳　(8)多文化共生

１．研究開始当初の背景

従来、「異文化コミュニケーション研究」は、言語や文化の問題として狭く捉えられ、環境問題など喫緊の社会的課題に対処する学としては展開されてこなかったきらいがある。他方、「持続可能な未来」という概念は、経済や社会、とくに環境開発に関わるものとして一般的に考えられており、環境運動のような、地球レベルでの変革を求める社会活動に必然的に伴う異文化間・異言語間コミュニケーションの問題を軽視する傾向が強かった。本研究では、「異文化コミュニケーション研究」と「持続可能な未来」を結び付け、言語

文化的な側面と社会経済的な側面とが渾然一体となっている複合的な現実世界の課題を扱い、具体的な行動に直結し得るような学を構築しようと試みた。

２．研究の目的

本研究は、異文化コミュニケーション学を「行動の学」と位置づけ、その理論的枠組みを確立することを通して、持続可能な未来を築いていくための国際理解教育への試案を提示することを目的とした。

３．研究の方法

「持続可能な未来のための異文化コミュニケーション学」はコミュニケーション概念を中核に自然科学と文化系の研究とを接合するという枠組構築を目指した。平成 18 年度、19 年度は各自の専門分野における研究を軸としつつ、実際の高校生フォーラムに協力することで実態調査を行った。

平成 19 年度 11 月 14 日（水）「第一回埼玉県高校生世界円卓会議」（大宮ソニックシティ国際会議室）の開催にあたっては、立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科が全面的に協力した。準備段階から研究代表者である鳥飼玖美子がアドバイザーとして密に関わり、当日も司会進行を担当し、国際協力という大きなテーマのもとに「異文化理解」「環境問題」「食料問題」の３テーマについて日本人高校生 50 名、15 カ国から 20 名の留学生が４時間強にわたり討論した。

鳥飼玖美子は又、2008 年 8 月 21 日に開催された第 45 回 全国国際教育研究大会埼玉大会（全国国際教育研究協議会主催、大会テーマ「持続可能な開発の為の教育活動」）において「持続可能な未来へ向けて―ことば・文化・コミュニケーション」と題する基調講演を行うなど、言葉とコミュニケーションの観点から国際理解教育の在り方を模索した。

「環境コミュニケーションに関する理論研究」を担当した野田研一は、国際学会実行委員として「ASLE 日韓合同シンポジウム：場所、自然、言葉　日韓環境文学の〈いま〉を考える」（2007 年 8 月 19 日～21 日金沢市文化ホール）を開催し、自然と言葉についての考察を深めた。

「環境、文化、言語を繋ぐコミュニケーション学の理論的枠組の構築」を担当の小山亘は、言語、文化、環境を接合するコミュニケーション論のモデルを三つに類型化した上で、各モデルの持つ社会的含意を分析し、グローカリゼーションが進行する現代社会において教育や社会活動などを通して推進されるべきコミュニケーションの様態を、理論的、歴史的観点から検討した。

「日本における対外接触の現状と課題及び異文化コミュニケーション論の再構築」を担当した久米昭元は、多文化社会に生きる日本人のコミュニケーションのあり方を留学やビジネス、国際交渉や国際協力などの場で起きる誤解や軋轢などの異文化コミュニケーション摩擦事例を中心に論じ、出版物として公表した。

「異文化コミュニケーションへの語用論的アプローチ」を担当した平賀正子は、語用論の枠組みを広げ行動実践の理論として位置づけるためのデータ収集を行い、暗黙の文化的・社会的前提を記述し説明するための実践理論モデルの構築を行った。同時に、行動実践を認知的に動機づけている概念化の仕組みについて隠喩理論を用いて分析し、その成果を発表した。

「持続可能な未来への環境教育（ESD）」を専門とする阿部治は、ESD の国内外への普及に関するアクションリサーチを行ないつつ、ESD 研究におけるマルチステークホルダー間のネットワークや高等教育における ESD ネットワーク（HESD)の構築に向けた課題について検討した。

最終年の１月には、国際理解教育の専門家を招き、これまでの国際理解教育の歩みを振り返り、現状を検討し、今後、国際理解教育がどのように展開されるべきかについて、率直な意見交換を行った。

４．研究成果

「異文化コミュニケーション研究」と「持続可能な未来」を結び付ける具体例として、国際理解教育を研究対象とした。「高校生世界円卓会議」等における実践と同時に、「環境、文化、言語を繋ぐコミュニケーション学の理論的枠組みの構築」「異文化コミュニケーションへの語用論的アプローチ」「環境コミュニケーション」「持続可能な未来への環境教育（ESD)」など理論研究も推進した。専門家会議を開催することで、国際理解教育のあり方、異文化コミュニケーション研究との関連、持続可能な未来への示唆について考察した。その成果は、『持続可能な未来のための異文化コミュニケーション学――明日の国際理解教育への試案』として報告書にまとめ、2009 年 3 月 31 日に刊行した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 33 件）

（1）鳥飼玖美子.（2009）.「多言語使用―教育学からのアプローチ」『認知神経科学』

第 11 巻 1 号. 167-168 頁.査読無（単著）
（2） Koyama, W. （2009）. Indexically anchored onto the deictic center of discourse: Grammar, sociocultural interaction, and “emancipatory pragmatics.” Journal of Pragmatics, 41(1), 79-92. 査読有（単著）
（3）久米昭元.（2009）.「異文化コミュニケーション研究の歩みと展望―個人的体験と回想を中心に」『異文化コミュニケーション論集』第７号, 29-43 頁. 立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科. 査読無（単著）
（4）野田研一.（2009）. A booklist of international environmental literature. Coordinated by Scott Slovic. World Literature Today: Literature, Culture, Politics, 83(1). 7-8 頁. The University of Oklahoma Press. 査読有（共著）
（5）Yamaguchi, A., & Koyama, W.（2009）. Toward a critical dialogue across languages and cultures: On native and Western linguistics in modern Japan. Journal of Pragmatics, 41(1), 147-156. 査読有（共著）
（6）鳥飼玖美子.（2008）.「真のコミュニケーション能力を培う為に：母語と外国語を繋ぐ言語教育」『学術の動向』56-58 頁. 査読有（単著）
（7）鳥飼玖美子.（2008）.「国際文化学―私の３冊」『インターカルチュラル６』日本国際文化学会年報, 第６号, 163-172 頁. 査読有（単著）
（8）鳥飼玖美子.（2008）.「留学」『留学交流』第 20 巻, 第 12 号. 26-29 頁. 独立行政法人日本学生支援機構 査読無（単著）
（9）鳥飼玖美子.（2008）.「異文化理解と発信：授業からスピーチ、そして留学へ」『全英連会誌』第４６号,65-74 頁.全国英語教育研究団体連合会 査読無（単著）
（10）阿部治.（2008）.「持続可能な社会を展望した環境教育の展開」『教育展望』第 54 巻, 第 2 号, 28-33 頁. 査読無（単著）
（11）佐藤真久・阿部治.（2008）.「 国連持続可能な開発のための教育の 10 年（2005～2014 年）国際実施計画（DESD-IIS）：DESD の目標と実施にむけた 7 つの戦略に焦点をおいて」『環境教育』第 17 巻, 第 3 号. 60-68 頁. 環境教育学会 査読無（共著）
（12）佐藤真久・阿部治・マイケル・アッチア.（2008）.「トリビシから 30 年ーアーメダバード会議の成果とこれからの環境教育」『環境情報科学』第 37 巻, 第 2 号. 3-14 頁. （社）環境情報科学センター 査読無(共著)
（13）平賀正子.（2008）.「詩的言語への認知的アプローチ：俳句の分析を通して」『日本認知言語学会論文集』第 8 号, 557-568 頁. 査読無（単著）
（14）小山亘.（2008）.「Origo：オリゴ」『月刊言語』第 37 巻, 第 5 号, 30-35 頁. 査読無（単著）
（15）野田研一.（2008）.「世界は残る。・・・失われるのはぼくらのほうだ：〈いま/ここ〉の詩学へ」『水声通信』No.24「特集 交感のポエティクス」、水声社. 42-50 頁. 査読有（単著）
（16）鳥飼玖美子.（2007）.「カタカナ語に見る意味のずれ」『月刊言語』第 36 巻, 第 6 号, 52-59 頁. 大修館書店. 査読無（単著）
（17）阿部治（2007）.「これからの環境教育・環境学習のありかた」『兵庫教育』第 673 号,18-23 頁. 査読無（単著）
（18）阿部治・佐藤あかね.（2007）.「環境配慮行動の促進要因と阻害要因の質的分析―マイカップの利用を事例として」『環境情報科学論文集』第 21 号, 195-200 頁. 環境情報科学センター 査読有（共著）
（19）阿部治・佐藤真久.（2007）.「国連持続可能な開発のための教育の 10 年」の国際実施計画とその策定の背景」『環境教育』第 17 巻、第 2 号. 78-86 頁. 環境教育学会 査読無（共著）
（20）小山亘.（2007）.「書評論文：平賀正子著、Metaphor and iconicity: A cognitive approach to analysing texts」『語用論研究』第 8 号, 109-121 頁. 査読無（単著）
（21）小山亘・永井那和.（編訳）(2007).「対談：マイケル・シルヴァスティン、山口明穂：『言語学』をこえて」『月刊言語』第 36, 第 4 号, 8-18 頁; 第 5 号, 10-17 頁; 第 6 号, 8-15 頁. 大修館書店. 査読無（共著）
（22）久米昭元.（2007）.「異文化コミュニケーション論の先駆者：ウイリアム・S・ハウエルの批評的考察」『日本コミュニケーション研究者会議 Proceedings』 第 17 巻 5 号, 5-79 頁. 査読無（単著）
（23）鳥飼玖美子.（2006）.「持続可能な未来への異文化コミュニケーション学」『学術月報』特集「魅力ある大学院教育イニシアティブ」第 59 巻, 第 1 号, 39-44 頁. 査読無（単著）
（24）鳥飼玖美子.（2006）.「小学校の英語教育は有効か」『日本の論点 2007』596-601 頁. 文芸春秋社 査読無（単著）
（25）阿部治.（2006）.「国連『持続可能な開発のための教育』の 10 年」『学術の動向』第 11 巻４号, 46-51 頁. 日本学術会議. 査読無（単著）
（26）阿部治.（2006）.「環境教育の現状と課題」『野鳥』701 号, p.8-10, 日本野鳥の会. 査読無（単著）
（27）阿部治.（2006）.「ESD の総合的研究のめざすもの」『農村文化運動』182 号, 3-17 頁. 査読無（単著）

(28) 阿部治. (2006)「持続可能な社会をめざす環境教育/ESD」『Bio-City』34 号, 34-39 頁. 査読無 (単著)
(29) 阿部治・児玉敏也. (2006).「『持続可能な開発のための教育』に向けた『参加型学習』概念の検討」『環境教育』第 15 巻,第 2 号. 45-55 頁. 環境教育学会. 査読有 (共著)
(30) Hiraga, M. K. (2006). Kanji: The visual metaphor. Style, 40 (1-2), 133-147. 査読有 (単著)
(31) Koyama, W. (2006) . Book review : Karen Risager, Language and culture: Global flows and local complexity. Journal of Pragmatics, 39, 436-440. 査読無 (単著)
(32) Kume, T. (2006). Contrastive prototypes of communication styles in decision-making: Mawashi style vs. tooshi style. In M. B. Hinner (Ed.), The influence of culture in the world of business (pp. 209-228). Frankfurt am Main: Peter Lang. 査読有 (単著)
(33) Torikai, K. (2006). Mapping the intercultural field in Japan : Possibilities and potentials. 『異文化コミュニケーション』SIETAR JAPAN. 異文化コミュニケーション学会創立 20 周年記念号, No.9, 21-31 頁. 査読有 (単著)

〔学会発表〕(計 30 件)

(1) Torikai, K. (March 18, 2009). "Oral history of Japanese interpreters-Their professional identity and the role perception" International Workshop on Translators and Interpreters as an Occupational Group, (Tel Aviv University). (招待発表・単独)
(2)小山亘. (2009 年 2 月 27 日).「オリゴ、あるいはコミュニケーションの基点：意味論、語用論、社会文化理論を＜指標野の中心＞で結節させる「出来事の視点」」第 31 回人工知能学会ことば工学研究会シンポジウム「主観性とパースペクティヴ」(関西大学千里山キャンパス、大阪) (研究発表・単独)
(3) Hiraga, M. K. (December 17, 2008). "The tao of talk in educational pragmatics: A case of intercultural tutorials in Britain." The First Conference of Cultural and Linguistic Practices in the International University (ロスキル、デンマーク) (基調講演・単独).
(4) 鳥飼玖美子. (2008 年 10 月 18 日).「多文化時代における言葉とコミュニケーション」第 7 回多文化関係学会年次大会 (明星大学) (招聘講演・単独)
(5) Torikai, K. (September 28, 2008) "Language and intercultural education in Japan." 2008 Conference of Japan Intercultural Institute. (白百合大学) (基調講演・単独)
(6) 鳥飼玖美子. (2008 年 9 月２０日).「TOEFL・TOEIC と日本人の英語力：コミュニケーションに使える英語とは何か」全国高等専門学校英語教育学会 オリンピック青少年センター(基調講演・単独)
(7) 野田研一. (August 21/23, 2008) ."Beyond the world of words: Edward Abbey, Annie Dillard, and Jorge Luis Borges." I INTERNATIONAL CONFERENCE ON ECOLOGY AND LANGUAGES at National University of Codoba, Argentina, CÓRDOBA, ARGENTINA. (基調講演・単独).
(8) 鳥飼玖美子. (2008 年 8 月２１日).「持続可能な未来へ向けて―ことば・文化・コミュニケーション」第 45 回 全国国際教育研究大会埼玉大会 (浦和コミュニティセンター (基調講演・単独)
(9) Torikai, K. (August 6, 2008) . "Interpreting studies in Japan: Theory and practice." XVIII FIT World Congress (International Federation of Translators). (中国上海市 International Convention Center) (発表およびパネル司会)
(10) Torikai, K. (August 6, 2008) . "The role of translators and interpreters in a Japanese context." XVIII FIT World Congress (International Federation of Translators). (中国上海市 International Convention Center) (発表およびパネル司会)
(11) 鳥飼玖美子. (2008 年 7 月 25 日).「異文化理解と発信：授業からスピーチ、そして留学へ」全国英語教育研究団体連合会夏季全国理事会 (オリンピック記念青少年センター) (記念講演・単独)
(12) 鳥飼玖美子. (2008 年 7 月 13 日).「医療と通訳：コミュニケーションの視点から」第 11 回日本医学英語教育学会 (笹川記念会館) 基調講演・単独)
(13) 鳥飼玖美子. (2008 年 7 月 12 日).「多言語使用―教育学からのアプローチ」認知神経学会シンポジウム「多言語使用--脳科学、言語学、教育学からのアプローチ」(東京大学工学部先端知ビル武田ホール) (招待発表・単独)
(14) 阿部治. (2007 年 11 月 30 日).「日本の環境教育/ESD の発展：1990 年代以降を中心に」 2007 International Sustainable Campus Seminar 台湾教育部 (台北市国際会議場) (単独)
(15) 平賀正子. (2007 年 9 月 23 日) .「詩的言語への認知的アプローチ：俳句の分析を通して」第８回日本認知言語学会シンポジウ

ム「認知言語学とコミュニケーション」(成蹊大学、東京)(パネリスト・単独)
(16) Hiraga,M.K.& Turner, J. (September 6, 2007). "Tutor-student pragmatics: Cultural complexities of verbalisation" 第50回英国応用言語学会(エジンバラ大学、連合王国)(研究発表・共同).
(17) 鳥飼玖美子.(2007年8月18日).「第二言語で話すということ:言語運用力とコミュニケーション」第6回国際OPIシンポジウム (京都キャンパスプラザ)(基調講演・単独)
(18) 阿部治.(2007年8月18日).「持続可能な開発のための教育(ESD)に対する科学教育の課題」日本科学教育学会第31回年会(北海道大学) (単独)
(19) 鳥飼玖美子.(2007年8月9日). 「日本語教育としての英語教育―言語リテラシーを問い直す」東京大学大学院教育学研究科附属学校教育高度化センター・基礎学力向上プロジェクト(東京大学小柴ホール)(基調講演・単独)
(20) 鳥飼玖美子.(2007年7月21日).「真のコミュニケーション能力を培うために―母語と外国語を繋ぐ言語教育」日本学術会議言語文学委員会・立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科共催公開シンポジウム『日本語の将来に向けて―ことばの教育はいかにあるべきか』(立教大学池袋キャンパス)(パネリスト・単独)
(21)Hiraga, M. K. (July 17, 2007). "Conceptualizing women: Evidence from kanji" 第10回国際認知言語学会(クラコフ、ポーランド)シンポジウム(パネリスト・単独)
(22) Hiraga,M.K.& Turner, J. (July 9, 2007). "Constructing an academic habitus: An intercultural perspective on the British academic tutorial" 第10回国際語用論学会(ヨーテボリ大学、スウェーデン)(研究発表・共同).
(23) 鳥飼玖美子.(2007年6月14日).「通訳における文化的要素―通訳者は<文化>をどう捉えているか」梨花女子大国際シンポジウム(梨花女子大学)((招聘講演・単独)
(24) 阿部治.(2007年5月26日).「アジア地域のESD関連実践事例におけるESD観の相違と共通性」 日本環境教育学会第18回大会(鳥取環境大学) (単独)
(25) Hiraga,M.K.& Turner, J. (March 27, 2007). "Voice and silence: Differing values in British-Japanese intercultural educational settings" 第17回言語教育語用論学会(ハワイ大学、アメリカ合衆国)(研究発表・共同)
(26) 鳥飼玖美子.(2006年12月2日).「岐路に立つ大学英語教育――その現状と課題」早稲田大学英文学会 (早稲田大学西早稲田キャンパス)(基調講演・単独)
(27) 鳥飼玖美子.(2006年11月24日).「異文化間コミュニケーションのための人材養成」韓国国立全南大学国際シンポジウム(全南大学)(招聘講演・単独)
(28) 阿部治. (October 12, 2006). The suggestion on facilitating EE/ESD: from Japan's experience. International Seminar on Environmental Education/ Education for Sustainable Development (194-206頁). 韓国教育部. (Grand Conference Room, Korea Institute of Curriculum and Evaluation: KICE, Seoul,Korea) (単独)
(29) Abe, O. (September 18, 2006). The status of ESD (Edication for Sustainable Development) in Japan. The11the International Conference EURO-ECO. (Centre of the Japanese Art and Technology, Krakow,Poland) (単独)
(30)Torikai, K. (July 29, 2006). "Interpreting Studies and Language Education" 上智大学言語学会(上智大学)(基調講演・単独)

〔図書〕(計28件)

(1) 鳥飼玖美子.(編著)(2009).『自律した学習者を育てる英語教育の探求:小中高大を接続することばの教育として』中央教育研究所.
(2) Hiraga, M. K. (2009). Food for thought: CONDUIT vs. FOOD metaphors for communication. In K. Turner & B. Fraser (Eds.), Language in life, and a life in language: Jacob Mey, a festschrift (pp. 165-171). Bingley, UK: Emerald. (単著)
(3) 小山亘・綾部保志.(2009).「社会文化コミュニケーション、文法、英語教育:現代言語人類学と記号論の射程」 綾部保志(編)『言語人類学から見た英語教育』(9-85頁).ひつじ書房. (共著)
(4) 久米昭元.(2009).「日本型リーダーの類型」(他) 久米昭元・遠山淳・中村生雄・佐藤弘夫(編著).『日本文化論キーワード』有斐閣.(キーワード5項目執筆)10頁 (共著)
(5) Torikai, K. (2009.). Voices of the invisible presence: Diplomatic interpreters in post-World War II Japan. Amsterdam & Philadelphia: John Benjamins. 193頁(単著)
(6) 阿部治 (2008)「自然保護教育の展望」阿部治・朝岡幸彦(監修)小川潔・伊東静一・又井裕子(編)『自然保護教育論』(149－159頁). 筑波書房(単著)
(7) 阿部治.(2008). 「国連持続可能な開発のための教育の10年」381頁、「持続可能な

開発のための教育」449 頁、「テサロニキ会議」711-712 頁 『環境事典』(日本科学者会議編) 旬報社. (共著)
(8) 阿部治. (2008). 「世界と日本の環境教育の歩み」『日本型環境教育の知恵』(社団法人日本環境教育フォーラム(編著)(10-28 頁). 小学館 (単著)
(9) 阿部治.・朝岡幸彦. (監修) 小川潔・伊藤静一・又井裕子 (編著) (2008).「自然保護教育の視点 (第四章・第一節)」『自然保護教育論—持続可能な社会のための環境教育シリーズ (2)』(149-159 頁) 筑波書房 (共著)
(10) 阿部治.・高橋康夫. (監修) (2008).『子どもエコ自然観察ガイド』(3-47 頁)東京書籍 (共著)
(11) Hiraga, M. K. (2008). Tao of learning: Metaphors Japanese students live by. In E. Berendt (Ed.), Metaphors for learning: A cross-cultural perspective (pp. 55-72). Amsterdam: John Benjamins. (単著)
(12) 小山亘. (2008). 『記号の系譜 : 社会記号論系言語人類学の射程』537 頁.三元社. (単著)
(13) 鳥飼玖美子. (監訳) (2008). 『通訳学入門』295 頁.みすず書房.
(14) 鳥飼玖美子. (2008) . 「第二言語で話すということ—言語運用力とコミュニケーション」. 鎌田修・嶋田和子・迫田久美子 (編著)『プロフィシェンシーを育てる—真の日本語能力をめざして』(40-51 頁). 凡人社. (単著)
(15) 鳥飼玖美子. (2008) . 「はじめに」. 津田守 (編), 日本通訳翻訳学会 (監修)『法務通訳翻訳という仕事』(1-5 頁).大阪大学出版会. (単著)
(16) 阿部治・野田研一. (2007). 『あなたの暮らしが世界を変える—持続可能な未来がわかる絵本』127 頁.山と渓谷社. (共著)
(17) 久米昭元・長谷川典子. (2007). 『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション—誤解・失敗・すれ違い』261 頁.有斐閣. (共著)
(18) 野田研一. (2007). 『自然を感じるこころ—ネイチャーライティング入門』158 頁.筑摩書房. (単著)
(19) 野田研一. (2007). 『英語文学事典』(木下卓、窪田憲子、高田賢一、野田研一、久守和子 編著) 829 頁.ミネルヴァ書房. (共著)
(20) 鳥飼玖美子. (2007). 『通訳者と戦後日米外交』382 頁.みすず書房. (単著)
(21) 阿部治. (2006).「ESD の総合的研究のめざすもの」『農村文化運動』182 号, 3-17 頁. (単著)
(22) 阿部治. (2006).『人権年鑑 2005－2006』((社) 部落解放・人権研究所編) (13-16 頁) 解放出版社
(23) 阿部治. (2006).「ESD とは」日本ホリスティック教育協会編,『持続可能な教育社会を作る』(98-103 頁). (単著)
(24) 久米昭元. (2006). 「多文化理解のコミュニケーション理論」倉地暁美 (編)『講座・日本語教育学』第 5 巻『多文化間の教育と近接領域』. (114-131 頁). (単著)
(25) 野田研一. (2006). 「いま/ここの不在—発見の物語 (ナラティブ) としての『ウォールデン』」上岡克己、高橋勤 (編) .『ウォールデン』(126-138 頁).ミネルヴァ書房. (単著)
(26) 鳥飼玖美子. (2006). 『危うし！小学校英語』280 頁. 文藝春秋社. (単著)
(27) 鳥飼玖美子. (2006).「持続可能な未来へのコミュニケーション教育」 大津由紀雄 (編)『日本の英語教育に必要なこと : 小学校英語と英語教育政策』(135-151 頁). 慶応大学出版会. (単著)
(28) 鳥飼玖美子. (2006).「地球社会時代のコミュニケーション能力 : 国際語としての英語」『新・リーダーの条件』(344-364 頁). 上智大学出版会. (単著)

６．研究組織

(1)研究代表者

鳥飼　玖美子 (TORIKAI KUMIKO)
立教大学・大学院異文化コミュニケーション研究科・教授
研究者番号：80219360

(2)研究分担者

久米　昭元
立教大学・異文化コミュニケーション学部・教授
研究者番号：50131199
平賀　正子
立教大学・異文化コミュニケーション学部・教授
研究者番号：90199050
野田　研一
立教大学・大学院異文化コミュニケーション研究科・教授
研究者番号：60145969
阿部　治
立教大学・社会学部・教授
研究者番号：60184206
小山　亘
立教大学・大学院異文化コミュニケーション研究科・教授
研究者番号：30366942

(3)連携研究者

なし